

1 研究主題

自己の生き方について考えを深める黒木っ子の育成

～「考え、議論する」道徳科の実践を通した「深い学び」の実現を目指して～

2 主題の捉え方

(1) 「考え、議論する」とは

『考える』・・・主体的に自分との関わりで考える。自分の考え方、感じ方を明確にする。

『議論する』・・・友達や教師と多様な視点から話し合い、多様な考え方、感じ方と出あい交流する。自分の考え方、感じ方をより明確にする。

(2) 「深い学び」とは

子供たちが習得・活用・探求を見通した学習過程の中で「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、「見方・考え方」を成長させながら、資質・能力を獲得していけるような学びのことである。

(3) 道徳科における「深い学び」とは

様々な事象について道徳的諸価値を基に、自分との関わりで多面的・多角的にとらえ、自己の生き方について考えること。

【学校教育目標】

3 研究構想図

誠実で 誰にでも優しく 最後までやり遂げる 黒木の子供の育成

【目指す子供の姿】

明るい子……仲良く助け合う子

考える子……よく考え、進んで学ぶ子

がんばる子……最後までがんばる子

【研究主題】

自己の生き方について考えを深める黒木っ子の育成

～「考え、議論する」道徳科の実践を通した「深い学び」の実現を目指して～

【めざす子供像】

- ・ 問題意識をもって、主体的に自分との関わりで考えることができる子供【主体的な学び】
- ・ 自分の考えや思いを伝え、相手の考えを理解するとともに、自分と異なる意見と向かい合い議論できる子供【対話的な学び】
- ・ 様々な事象について道徳的諸価値を基に、自分との関わりで多面的・多角的にとらえ、自己の生き方について考えることができる子供【深い学び】

【研究仮説】

【仮説1】 道徳の時間において、考え・議論する場や方法、自覚化を促す工夫をすることで、**深い学び**が実現するのではないか。

【仮説2】 板書や資料等の指導方法を工夫改善したり、見取りの視点を設定し評価につなげたりすることで、指導に生かし、**道徳性を高める**ことができるのではないか。

↑ 【研究仮説へのアプローチ】 ↑

<深い学びの実現のための手立て>

- ① 考え・議論させるための話し合いの在り方や教師の関わり方の工夫(学習形態・発問計画など)
- ② 自分事の問題として捉えさせ、自己の生き方について考えさせる指導法の工夫(自覚化)

<評価・授業改善のための手立て>

- ① 板書や資料・ワークシートの工夫
(板書の構造化等)
- ② 評価・授業改善につなげるための、見取りの方法や視点の設定

4 研究組織

〈研究班〉・・・次の3つの班に分かれてそれぞれ研究を進める。

理論班（永山・村尾・教頭）

実態調査をもとに研究仮説を立て本校の道徳研究についての方向性をしめす。

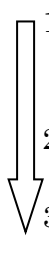
授業研究班（安田・満塩・校長）

研究授業における指導案検討や係り分担，授業研究等を進める。

環境・分析班（濱田・春内）

教室やろうか等の設営や道徳的環境作りをする。児童の実態調査アンケートの集計・分析を行う。

3年計画案

- 
- 1年次（2018年度）：新学習指導要領を踏まえた道徳の授業をどのように行うか。
これまでの道徳の授業をどのように変えるか。
道徳の授業の流し方，「考え，議論する道徳」の在り方。
 - 2年次（2019年度）：「考え，議論する道徳」をどのように深め，「深い学び」のある授業にするか。
 - 3年次（2020年度）：自己の生き方について考えを深めるための授業の在り方。
評価の視点や方法の在り方。